

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																	
大原キャリアビジネス&ベクトル専門学校	昭和59年12月22日	赤星 哲志	〒910-0005 福井県福井市御幸1-5-20 (電話) 0776-21-0001																	
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																	
学校法人大原学園	昭和54年4月1日	中川 和久	〒101-0065 東京都千代田区西神田1-2-10 (電話) 03-3291-7981																	
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																
商業実務	商業実務関係専門課程	総合ビジネス科	平成27年文部省告示第13号	-																
学科の目的	本校は、教育基本法および学校教育法に従い、商業実務関係の専門課程および文化・教養関係の専門課程を設置し、社会に貢献し得る人材を育成することを目的とする。																			
認定年月日	平成 29年 2月28日																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技													
	2年	1,840時間	1,600時間	270時間	210時間	0時間	0時間													
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		単位時間													
40人	11人	0人	2人	4人	6人															
学期制度	■1学期:4月1日~8月31日 ■2学期:9月1日~12月31日 ■3学期:1月1日~3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 優、良、可、不可の4種 学期末試験、実習、レポート等の総合判断															
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月下旬~8月下旬 ■冬季:12月下旬~1月上旬 ■春季:3月下旬~4月上旬 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件		別表記載のすべての科目について可以上の成績評価であること															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任を中心に本人・保護者へヒアリング・指導を行い、問題を1つずつ解決しながら、学校へ復帰できる環境作りを行っている。		課外活動		■課外活動の種類 全日本電卓競技大会 運動系クラブ活動 ■サークル活動: 有															
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 福井鉄道(株) ユアーズホテルフワイ(株)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)															
	■就職指導内容 全体指導によるレクチャー 個別面接トレーニングなど				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合旅行業務取扱管理者</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>国内旅行業務取扱管理者</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>ホテルビジネス実務2級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	総合旅行業務取扱管理者	③	2人	1人	国内旅行業務取扱管理者	③	2人	2人	ホテルビジネス実務2級
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																	
総合旅行業務取扱管理者	③	2人	1人																	
国内旅行業務取扱管理者	③	2人	2人																	
ホテルビジネス実務2級	③	2人	2人																	
	■卒業者数 2人 ■就職希望者数 2人 ■就職者数 2人 ■就職率 : 100.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 : (平成 28年度卒業生に関する平成29年5月1日 時点の情報)		種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当する記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 特になし																	
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成28年4月1日時点において、在学者10名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者10名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 中途退学の兆しとして、欠席・遅刻・早退の増加、授業への集中力の欠如及び検定試験への受験意欲の低下などに現れる。よって、以下の内容を防止策として取り組んでいる。 (1)欠席等の防止 一定の欠席累計到達者に対する面談による改善指導など (2)学習に対する意欲低下 目指す職業に就くためへのカリキュラム(検定試験含む)の必要性を説明するガイダンスなどを定期的に実施している。 (3)その他 学校行事などの運営(運動会・球技大会・研修旅行)		■中退率 0.0 %																	
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免 (有)無 ①試験による特別奨学生制度:がんばる人を支援するために「試験による特別奨学生制度」を実施しています。この制度は、大原独自の特別奨学生試験の結果に応じて入学金・授業料の全額または一部を免除するものです。 ②資格・クラブ活動による特別奨学生制度:がんばる人を支援するために「資格・クラブ活動による特別奨学生制度」を実施しています。この制度は、大原学園入学までに取得した資格や成績を一定のランクに認定し、そのランクに応じて入学金・授業料の全額または一部を免除するものです。 ■専門実践教育訓練給付: (有)給付対象 非給付対象 ■民間の評価機関等から第三者評 有(有)																			
第三者による学校評価	民間の評価機関等から第三者評 有(有)																			
当該学科のホームページURL	http://www.o-hara.ac.jp/hokuriku/senmon/																			

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学」「資格取得」などを希望する者は含まれません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先である旅行業界企業・ホテル業界企業と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②文化教養分野における学修の中心となる運輸関連知識、旅行関連知識、宿泊関連知識、情報パソコンスキル等の教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

①位置づけについて

教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。また、委員会での協議結果は大原学園教育本部に提出し、大原学園全校の教育課程編成にも活用していく。

②意思決定の過程について

- (ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。
- (イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。
- (ウ)委員会での協議内容は学園教育本部に提出し、学園全校の教育課程編成にも活用していく。
- (エ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、就職本部長、教務部長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
大堀 貴弘	日本ホテル教育センター 理事長補佐	平成27年4月1日～平成29年3月31日	①
山崎 誠	旅行地理検定協会 コンサルティング担当部長	平成27年4月1日～平成29年3月31日	①
飯岡 正明	株式会社日本旅行ツーリスト 営業課長	平成28年5月1日～平成30年3月31日	③
赤星 哲志	大原キャリアビジネス&ペット専門学校 校長		
小倉 豪円	大原キャリアビジネス&ペット専門学校 副校長		
光照 良浩	大原キャリアビジネス&ペット専門学校 教務部長		
広瀬 顕信	大原キャリアビジネス&ペット専門学校 教務課長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催する。

第1回:「前年度教育成果の振り返り」

第2回:「今年度の課題整理と次年度以降教育内容の見直し」

(開催日時)

第1回 平成28年5月13日 15:30～17:00

第2回 平成28年7月15日 15:30～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

次年度の教育課程編成にあたり、特に職業実践演習などの授業科目では委員会における企業等からの助言を踏まえ、より実践的な教育内容にブラッシュアップを図っていく。具体的には、アジア諸国からのインバウンドに対応する為、10月より中国語と韓国語の語学授業を取り入れている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ① 商業実務分野における実習・演習は、業界企業等との連携の下、学内で行なわれる学習科目が多いことを考慮して、実習・演習の組立を行う。
- ② 企業等との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
- ③ 学外における実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等の実務の視点から評価を仰ぐ。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

ツアープランニングⅠ、ホテル実習の授業運営に関して企業等と協定書を締結、打合せを行い、下記について講義内容の質向上のために連携している。

- ① 実習授業内容構築へのサポート
- ② 当該実習授業における評価ポイントの確認
- ③ 授業方法に関する教員への指導
- ④ 学生の学修習熟状況の評価

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
ツアープランニングⅠ	学生自ら国内もしくは海外旅行プランを企画し、さらに必要な各種手配も行う総合的な演習を実施。	杉本 千秋((株)福井旅行)
ホテル実習	客室の種類、レセプション業務、フロント業務、インフォメーション業務、レストラン業務などホテルマンの業務理解を通じて、ホテル業務の全貌を学ぶ。	ホテルフジタ福井

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記のとおり教員研修の環境を整える。

- ① 教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
- ② 大学教授等専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施
- ③ 学内に設置される附帯教育講座を利用した自己啓発

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

商業実務分野の指導に必要な専門知識向上を目的として学内において下記の教員研修会を開催した。詳細は別紙参照のこと。

株式会社JTB総合研究所により、実務における具体的な題材をテーマにして、業界理解を中心とした教員研修会の開催・・・平成28年12月

② 指導力の修得・向上のための研修等

イオンリテール株式会社により、実務における具体的な題材をテーマにして、マーケティングを中心とした教員研修会の開催・・・平成28年7月

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

イオンリテール株式会社により、実務におけるマーケティング・分析・企画立案ならびにプレゼン手法の知識および講義ポイントの研修。・・・平成29年7月

■ イオンリテール株式会社による実務におけるマーケティング・分析・企画立案ならびにプレゼン手法に対する企業内での研修方法等を修得し、指導方法の改善による指導力の向上を図る。・・・平成29年7月

■ 学生との信頼関係構築のためのコミュニケーション能力向上研修

日時：平成29年8月2日 14:00～16:00

講師：株式会社 アウトプランニング 代表取締役 中地陽子氏

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2) 学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3) 教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行なう事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。
(4) 学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
(5) 学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6) 教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8) 財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。

(9) 法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

今年度は下記について特にご意見をいただいた。

- ①就職教育の充実
- ②資格取得率の向上と実践的な知識習得
- ③保護者との連携強化

評価委員会後、下記のとおり教育活動を改善している。

①については、個人面談の継続実施や性格診断テストの継続実施を通じて、学生個人の資質・適性及び能力を把握し、即戦力として活躍できる人材育成を行う教育プログラムの作成に取り掛かっている。また、学校行事等で他分野の教職員・学生との交流によるコミュニケーション能力の向上、社会性の向上などははかれるよう、教育プログラムの作成に取り掛かっている。

②については、できるだけ実社会に対応した教育を常に意識し、指導していくことが必要である。そのために企業、社会が求めている能力を時代とともに察知するとともに、知識習得、研究を行い教員の指導力向上を進めるよう、業界、団体等の講習会などへの参加を奨励する。

③については、現在行っているメール配信や月次報告の発送などを継続の上、教育に対する更なる理解浸透を図るための連携強化策を検討し始めている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
飯岡 正明	株式会社日本旅行ツウリスト 営業課長	平成28年5月1日～平成30年3月31日	企業等委員
酒井 和博	さかい動物病院 院長	平成28年4月1日～平成30年3月31日まで	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL:<http://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

公表時期: 平成29年9月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。

②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。

③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①学校の概要 ②目標・方針・特色 ③所在地、連絡先 ④学校の沿革
(2) 各学科等の教育	①カリキュラム、時間割、目指す資格 ②検定、資格取得・検定試験合格実績 ③卒業生の進路
(3) 教職員	各学科の担当教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	留学生の募集
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

授業科目等の概要

(商業実務関係専門課程 総合ビジネス学科) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネス実務Ⅰ	基本となるビジネスマナーなどの社会常識を習得するための学習を行なう。	1 ①	60	○			○		○		
○			ビジネス実務Ⅱ	企業人として最低限身に付けておくべき社会常識について実務知識も交えて学習する。	2 通	120	○			○		○		
○			就職実務Ⅰ	業界・企業研究を行い、さらに、一般常識対策、面接対策、立ち居振る舞いなど、有能な企業人として身に付けておくべき基本をトレーニングする。	1 ③	60			○	○		○		
○			就職実務Ⅱ	業務上求められるビジネススキルの向上を図るため、接客、接遇に関する実践的な演習を行う。	2 ①	30		○		○		○		
○			国内旅行Ⅰ	国内旅行業法令、旅行業約款、運送約款などの法令について学び、それを通じて、業界への理解を深める。	1 通	180	○			○		○		
○			国内旅行Ⅱ	運賃・料金計算、航空チケットの発券などの実務的な知識を学び、さらに国内の観光知識も学習する。	2 ①	60	○			○		○		
○			総合旅行Ⅰ	国際航空運賃の計算、出入国法令、海外観光地理などの学習を通じて、実務能力の向上を目指す。	1 通	120	○			○		○		
○			総合旅行Ⅱ	国際航空運賃の計算、OAGやトーマスクックなどの国際時刻表の見方、ホテルの手配、時差の計算、出入国実務などについて幅広く学ぶ。	2 通	150	△	○		○		○		
○			英検総合対策Ⅰ	英検準2級の取得を目標に、基礎となる単語・熟語を学び、実践的な英語構文を学習する。	1 通	120	○			○		○		
○			英検総合対策Ⅱ	英検2級の取得を目標に、基礎となる単語・熟語を学び、実践的な英語構文を学習する。	2 ②	60	○			○		○		
○			観光英検Ⅰ	観光英語3級合格を目指す。海外の空港、ホテル、レストラン等で必要となる単語力の習得をベースに国内外の文化、地理、景勝地等の知識を学ぶ。	1 ②	90	○			○		○		
○			観光英検Ⅱ	観光英検の授業を補完するものとして、海外旅行に関連する英文購読や英文リスニングを教材に海外旅行での実践的英語力を磨く。	2 ②	45	○			○		○		
○			TOEIC対策	業界で要求されるTOEIC550点以上のスコアを目標に、総合的な英語力を磨くと共に、TOEICに特化した独特の解法テクニックのマスターを目指す。	2 ②	90	○			○		○		
○			英会話Ⅰ	日常会話において英語でコミュニケーションを楽しみながら話せる力を養う事を目標に学習を行う。	1 ①	90	○			○		○		

○	英会話Ⅱ	英語でのコミュニケーション力を伸ばさせるため、リスニング力、スピーチ力、質疑応答力の向上を目指し学習する。	2 ①	90	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	リスニング	海外旅行に関連する英文購読や英文リスニングを題材に海外での実践的英語力を磨く。	2 ②	45	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	ツアープランニングⅠ	学生自ら国内もしくは海外旅行プランを企画し、さらに必要な各種手配も行う総合的な演習を実施。	1 ②	30		△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	ツアープランニングⅡ	関連業務として、航空業界やホテル業界についても実習を交えて学習し、プロとして働く醍醐味と厳しさを理解する。	2 ③	60		△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	旅行地理	旅行地理検定対策を通じ、国内、国外旅行の添乗業務や旅行会社での窓口業務に必要な地理的な知識を学ぶ。	2 ②	120	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	旅行Airline業界研究	エアポートビジネス、発券業務、出入国業務、添乗業務などを学び、航空業界と旅行業界に関する理解を深める。	1 ③	60	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	サービス接遇	フロント、ドアマン、ベルマン、クローク、コンシェルジュ、ハウスキーピングなど職種特有のサービスのあり方を研究し、サービス接遇能力の向上を図る。	2 ①	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	ホスピタリティ	サービスにおける中心的な考え方であるホスピタリティの概念を理解するためのロールプレイを実施する。	1 ②	10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	ホテル実務	客室の種類、レセプション業務、フロント業務、インフォメーション業務、レストラン業務などホテルマンの業務理解を通じて、ホテル業務の全貌を学ぶ。	1 ③	60	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	ホテル実習	客室の種類、レセプション業務、フロント業務、インフォメーション業務、レストラン業務などホテルマンの業務理解を通じて、ホテル業務の全貌を学ぶ。	1 ③	60		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
合計			24科目		1,840単位時間(単位)															

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(試 験)	1. 学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって、これを定める。ただし、授業科目によっては、その他の方法で査定することができる。 2. 試験には定期試験、追試験および再試験等がある。追試験はやむを得ない事故等により定期試験を受けなかった者に対して行い、再試験は受験の結果、不合格となった者のためにこれを行う。 3. 追試験および再試験は、本校において必要と認めたとときに限り、これを行う。	1 学年の学期区分	3 期
		1 学期の授業期間	1 5 週
(学業成績)	学業成績の判定は優、良、可、不可の4種をもってこれを表し、優は80点以上、良は60点以上、可は50点以上、不可は49点以下とし、優、良、可を合格、不可は不合格とする。		
(卒業)	本校に在学し、下記に定める授業時数以上履修し、かつ、その該当する所定の授業科目について各学年末における試験に合格して卒業資格を得た者には、卒業証書を授与する。 (1) 総合ビジネス科 1,840時間		

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。